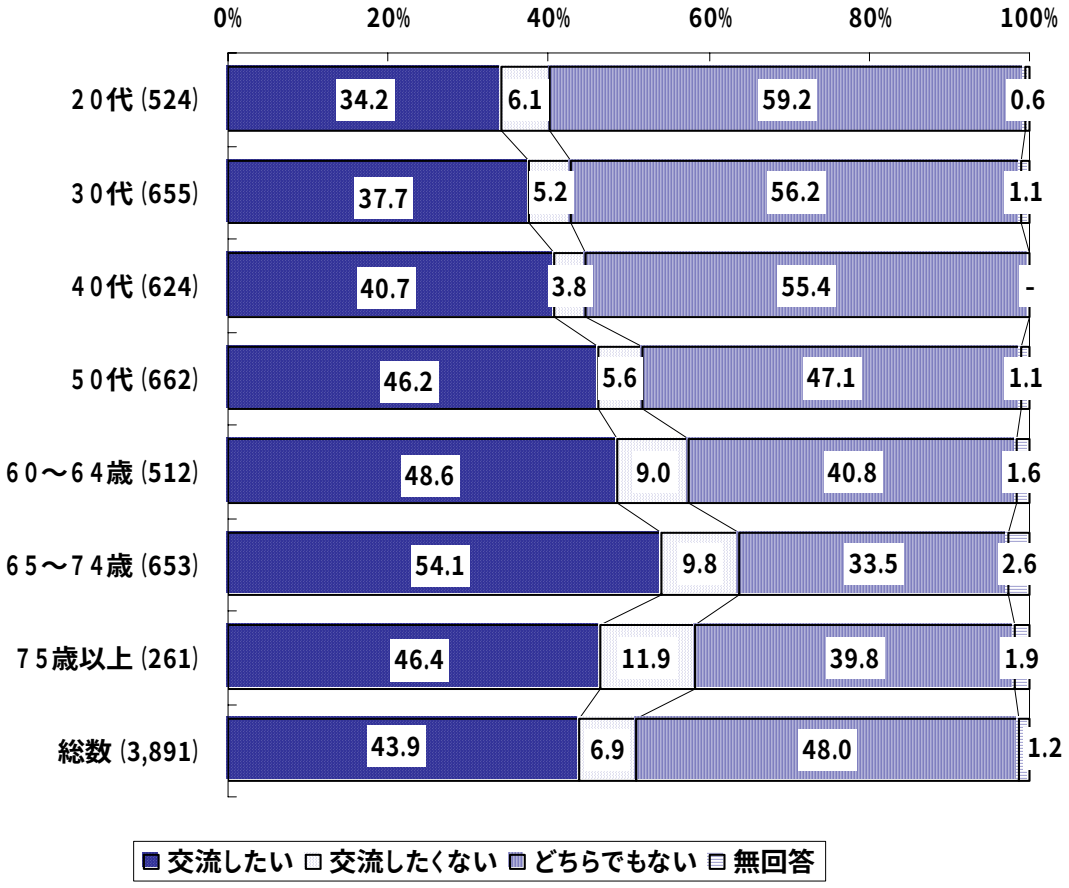
(1) 世代間交流に対する意向

① 世代間交流に対する意向(Ｑ７(1)(2))

Ｑ５で「あてはまっている(自分を高齢者と思う)」と答えた人に、「若い世代の方と、今後交流したいと思うか」について、「あてはまっていない(自分を高齢者ではないと思う)」と答えた人に、「高齢者の方と、今後交流したいと思うか」について尋ねると、「交流したい」が 43.9%となっている。一方、「交流したくない」は 6.9%と、１割未満にとどまっており、「どちらでもない」が 48.0%と高くなっている。

図７－１　世代間交流について（Ｑ７(1)(2)）



男女別にみると、「交流したい」(男性 40.0%、女性 47.5%)は女性の、「どちらでもない」(男性 51.8%、女性 44.5%)は男性の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「交流したい」は、50 代以上の年代で割合が高く、特に 65～74 歳で 54.1%と高くなっている。

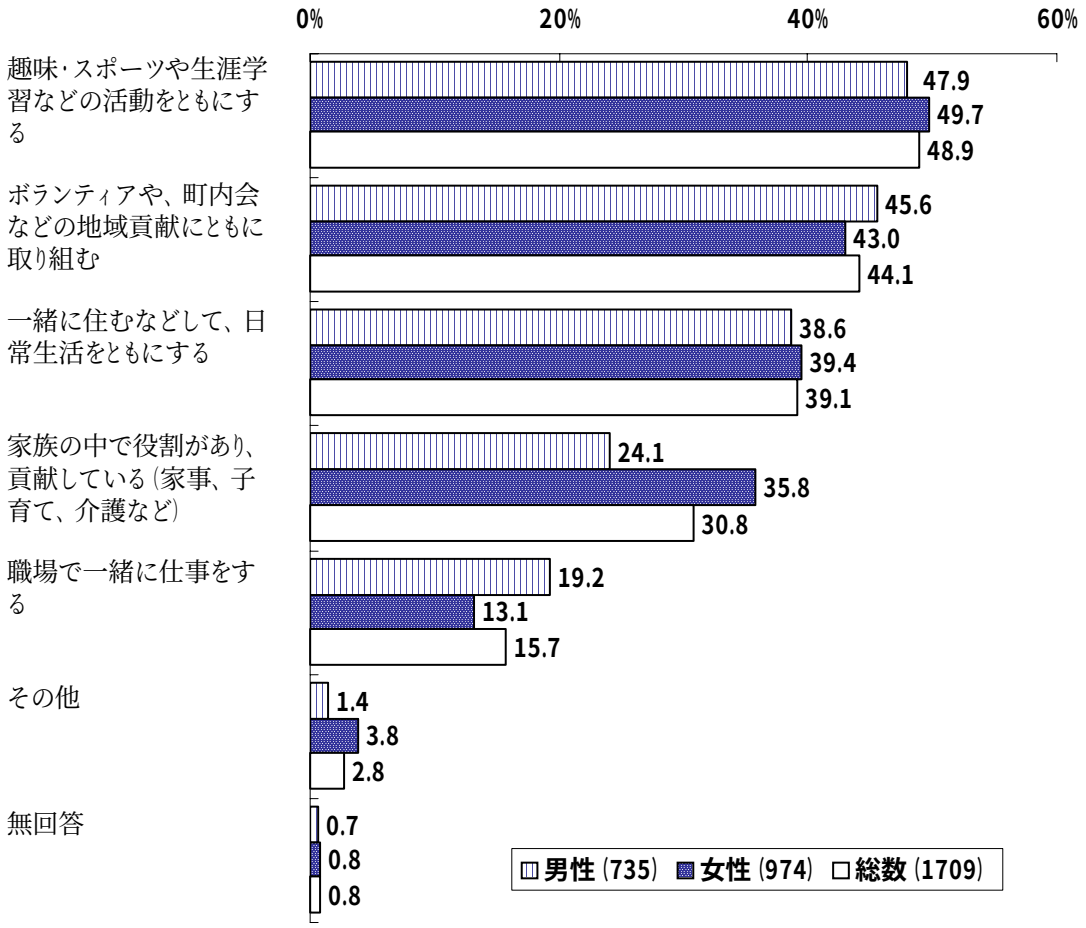
表７－１　世代間交流について（Ｑ７(1)(2)）

	該当者数	交流したい	交流したくない	どちらでもない	無回答
【総数】	3,891	43.9	6.9	48.0	1.2
【性別】					
男性	1,839	40.0	7.0	51.8	1.2
女性	2,052	47.5	6.8	44.5	1.2
【年齢】					
２０代	524	34.2	6.1	59.2	0.6
３０代	655	37.7	5.2	56.2	1.1
４０代	624	40.7	3.8	55.4	－
５０代	662	46.2	5.6	47.1	1.1
６０～６４歳	512	48.6	9.0	40.8	1.6
６５～７４歳	653	54.1	9.8	33.5	2.6
７５歳以上	261	46.4	11.9	39.8	1.9

② 交流したいこと（Ｑ７(３)）

Ｑ７（１）またはＱ７（２）で、「交流したい」と答えた人に、「どのような交流をしたいか」尋ねると、「趣味・スポーツや生涯学習などの活動をともにする」が 48.9%と最も高く、以下「ボランティアや、町内会などの地域貢献にともに取り組む」44.1%、「一緒に住むなどして、日常生活をともにする」39.1%、「家族の中で役割があり、貢献している(家事、子育て、介護など)」30.8%、「職場で一緒に仕事をする」15.7%等の順になっている。

図７－３　交流したいこと（Ｑ７(3)）（複数回答）



性別にみると、「家族の中で役割があり、貢献している（家事、子育て、介護など）」（男性 24.1%、女性 35.8%）は女性の、「職場で一緒に仕事をする」（男性 19.2%、女性 13.1%）は、男性の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「趣味・スポーツや生涯学習などの活動をともにする」は 60～64 歳(56.6%)、65～74 歳（53.0%）の割合が高く、「一緒に住むなどして、日常生活をともにする」は 75 歳以上で 52.9%と高くなっている。

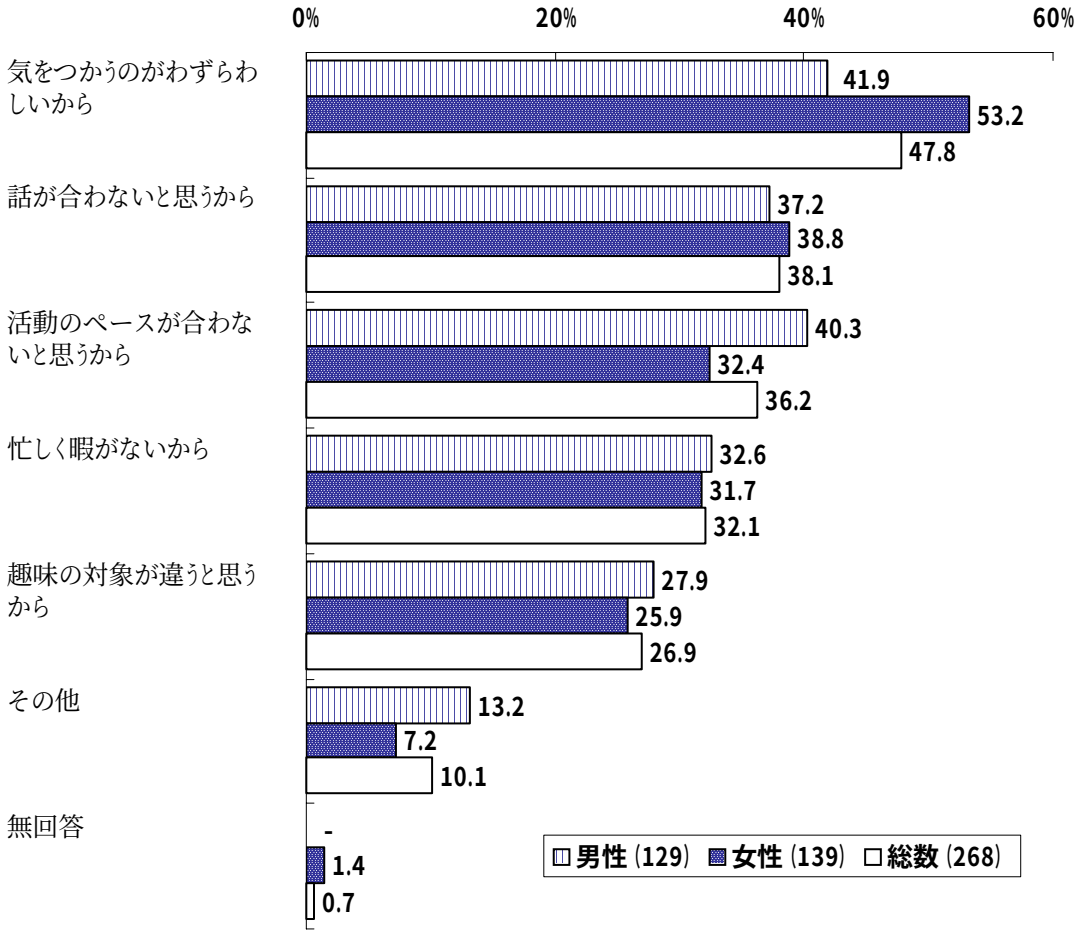
表７－３　交流したいこと（Ｑ７(3)）（複数回答）

	該当者数	趣味・スポーツや生涯学習などの活動をともにする	ボランティアや、町内会などの地域貢献にともに取り組む	一緒に住むなどして、日常生活をともにする	家族の中で役割があり、貢献している（家事、子育て、介護など）	職場で一緒に仕事をする	その他	無回答	計（M. T）
【総数】	1,709	48.9	44.1	39.1	30.8	15.7	2.8	0.8	182.2
【性別】									
男性	735	47.9	45.6	38.6	24.1	19.2	1.4	0.7	177.4
女性	974	49.7	43.0	39.4	35.8	13.1	3.8	0.8	185.7
【年齢】									
20代	179	46.9	41.9	32.4	22.3	25.1	6.7	0.6	176.0
30代	247	43.3	38.5	44.5	30.8	17.8	4.0	1.2	180.2
40代	254	45.7	44.5	43.7	34.3	16.9	2.0	0.4	187.4
50代	306	48.7	49.3	36.6	36.6	19.0	1.0	0.3	191.5
60～64歳	249	56.6	49.4	30.1	32.1	14.9	2.0	0.4	185.5
65～74歳	353	53.0	41.9	39.1	29.7	11.3	2.3	1.1	178.5
75歳以上	121	43.0	40.5	52.9	21.5	1.7	3.3	1.7	164.5

③ 交流したくない理由（Ｑ７(４)）

Ｑ７（１）またはＱ７（２）で、「交流したくない」と答えた人に「それはなぜか」理由について尋ねると、「気をつかうのがわずらわしいから」が 47.8%と最も高く、以下「話が合わないと思うから」38.1%、「活動のペースが合わないと思うから」36.2%、「忙しく暇がないから」32.1%、「趣味の対象が違うと思うから」26.9%等の順となっている。

図７－４　交流したくない理由（Ｑ７(4)）（複数回答）



性別にみると、「気をつかうのがわずらわしいから」(男性 41.9%、女性 53.2%)は女性の、「活動のペースが合わないと思うから」(男性 40.3%、女性 32.4%)は男性の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「気をつかうのがわずらわしいから」は 75 歳以上(54.8%)で、「話が合わないと思うから」は 20 代(50.0%)、「忙しく暇がないから」は 30 代(55.9%)で割合が高くなっている。

表７－４　交流したくない理由（Ｑ７(4)）（複数回答）

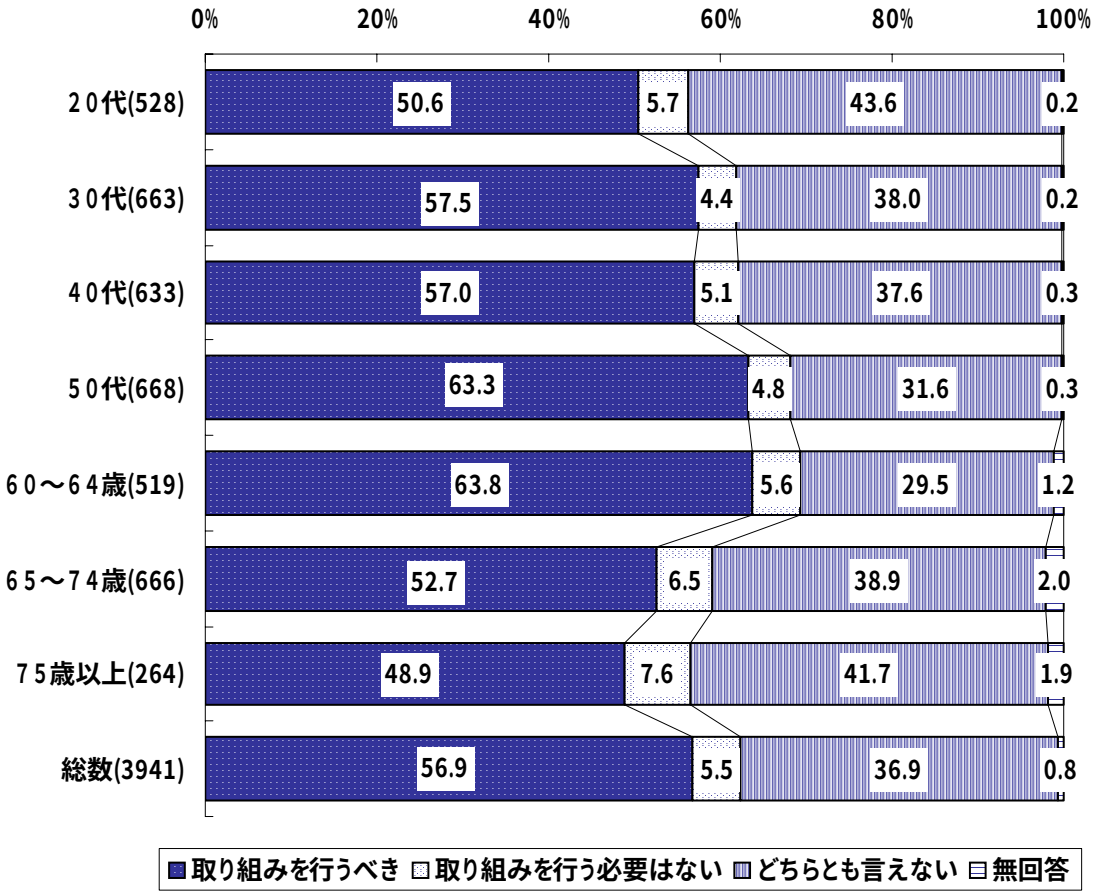
	該当者数	気をつかうのがわずらわしいから	話が合わないと思うから	活動のペースが合わないと思うから	忙しく暇がないから	趣味の対象が違うと思うから	その他	無回答	計（M. T）
【総数】	268	47.8	38.1	36.2	32.1	26.9	10.1	0.7	191.8
【性別】									
男性	129	41.9	37.2	40.3	32.6	27.9	13.2	－	193.0
女性	139	53.2	38.8	32.4	31.7	25.9	7.2	1.4	190.6
【年齢】									
20代	32	50.0	50.0	46.9	40.6	25.0	－	－	212.5
30代	34	44.1	44.1	38.2	55.9	23.5	2.9	－	208.8
40代	24	50.0	25.0	41.7	45.8	20.8	20.8	－	204.2
50代	37	51.4	35.1	27.0	32.4	32.4	5.4	2.7	186.5
60～64歳	46	41.3	39.1	34.8	26.1	28.3	6.5	2.2	178.3
65～74歳	64	46.9	34.4	35.9	21.9	31.3	10.9	－	181.3
75歳以上	31	54.8	38.7	32.3	16.1	19.4	29.0	－	190.3

(2) 世代間交流に関する施策ニーズ(Ｑ８)

「世代間の交流を活発にするために、国や自治体などが何らかの取り組みを行う必要があると思うか」についてみると、「取り組みを行うべき」が 56.9%と過半数を超えている。

一方、「取り組みを行う必要はない」は 5.5%となっており、「どちらとも言えない」が 36.9%となっている。

図８　世代間交流に関する施策ニーズ　（Ｑ８）



年齢別にみると、「取り組みを行うべき」は 60～64 歳（63.8%）、50 代（63.3%）で割合が高くなっている。

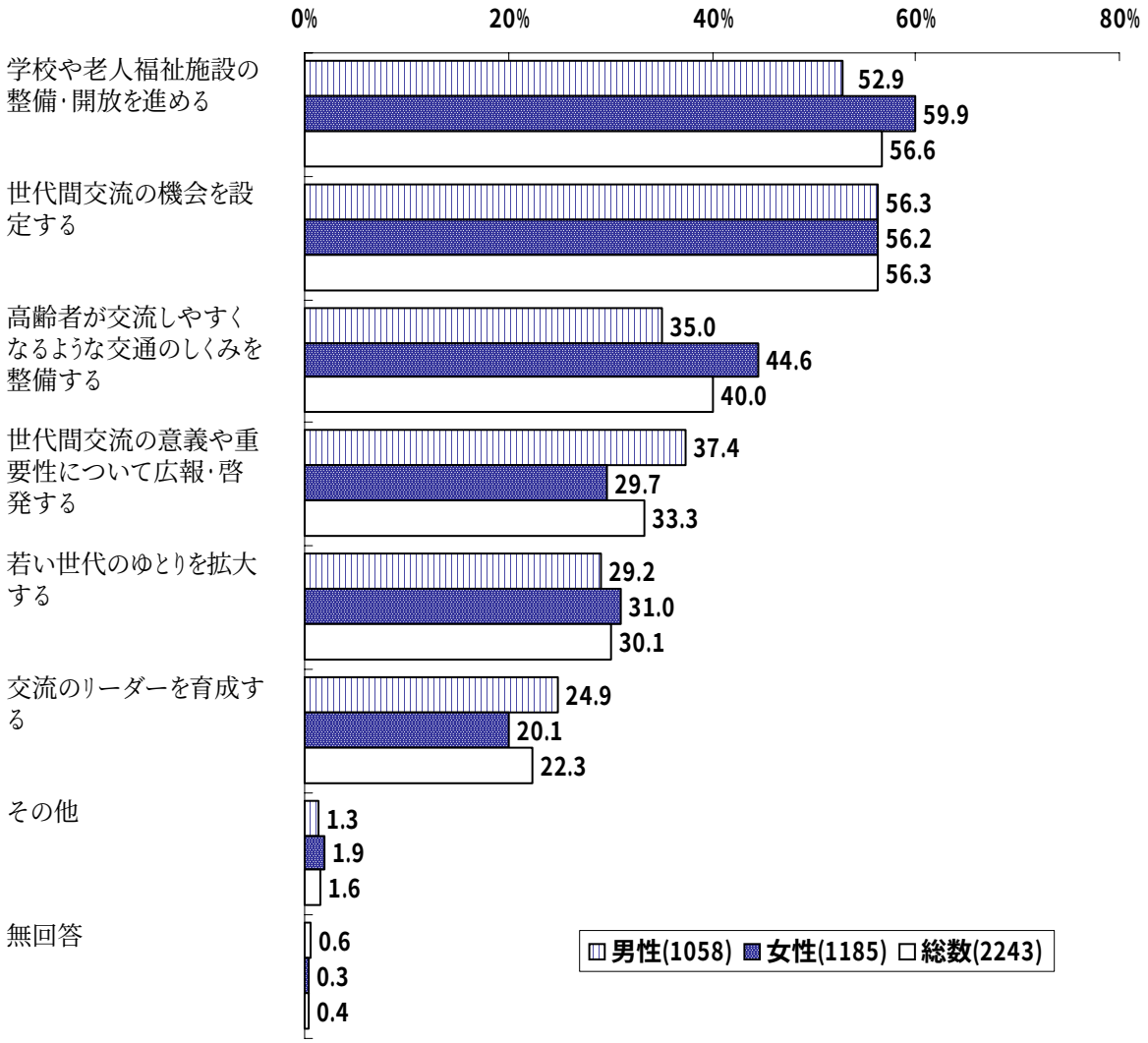
表８　世代間交流に関する施策ニーズ　（Ｑ８）

	総数	取り組みを行うべき	取り組みを行う必要はない	どちらとも言えない	無回答
【総数】	3,941	56.9	5.5	36.9	0.8
【性別】					
男性	1,862	56.8	6.6	35.8	0.8
女性	2,079	57.0	4.4	37.8	0.8
【年齢】					
20代	528	50.6	5.7	43.6	0.2
30代	663	57.5	4.4	38.0	0.2
40代	633	57.0	5.1	37.6	0.3
50代	668	63.3	4.8	31.6	0.3
60～64歳	519	63.8	5.6	29.5	1.2
65～74歳	666	52.7	6.5	38.9	2.0
75歳以上	264	48.9	7.6	41.7	1.9

SQ　国や自治体が取り組みを行うべきこと（ＳＱ８－１）

Ｑ８で「取り組みを行うべき」と答えた人に、「世代間の交流を活発にするために、国や自治体などにどのような取り組みを期待するか」について尋ねると、「学校や老人福祉施設の整備・開放を進める」が 56.6%で最も高く、次いで「世代間交流の機会を設定する」が 56.3%と５割強を占めており、以下「高齢者が交流しやすくなるような交通のしくみを整備する」40.0%、「世代間交流の意義や重要性について広報・啓発する」33.3%、「若い世代のゆとりを拡大する」30.1%、「交流のリーダーを育成する」22.3%等の順となっている。

図８－１　国や自治体が取り組みを行うべきこと（ＳＱ８－１）（複数回答）



性別にみると、「学校や老人福祉施設の整備・開放を進める」(男性 52.9%、女性 59.9%)、「高齢者が交流しやすくなるような交通のしくみを整備する」(男性 35.0%、女性 44.6%)は女性の割合が、「世代間交流の意義や重要性について広報・啓発する」(男性 37.4%、女性 29.7%)は男性の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「学校や老人福祉施設の整備･開放を進める」は､20 代(61.0%)､30 代(61.4%)の割合が高く、「世代間交流の機会を設定する」は 20 代(62.5%)、「世代間交流の意義や重要性について広報・啓発する」は 75 歳以上(47.3%)、65～74 歳(41.9%)の割合が高くなっている。

表８－１　国や自治体が取り組みを行うべきこと（ＳＱ８－１）(複数回答)

	該当者数	学校や老人福祉施設の整備･開放を進める	世代間交流の機会を設定する	高齢者が交流しやすくなるような交通のしくみを整備する	世代間交流の意義や重要性について広報･啓発する	若い世代のゆとりを拡大する	交流のリーダーを育成する	その他	無回答	計(M. T)
【総数】	2,243	56.6	56.3	40.0	33.3	30.1	22.3	1.6	0.4	240.7
【性別】										
男性	1,058	52.9	56.3	35.0	37.4	29.2	24.9	1.3	0.6	237.6
女性	1,185	59.9	56.2	44.6	29.7	31.0	20.1	1.9	0.3	243.5
【年齢】										
20代	267	61.0	62.5	40.1	22.1	31.1	12.7	1.9	0.4	231.8
30代	381	61.4	58.8	40.7	28.3	31.5	18.1	2.6	－	241.5
40代	361	59.8	61.8	37.7	28.8	35.2	22.7	2.5	0.3	248.8
50代	423	55.8	56.3	40.0	34.8	30.7	25.8	0.7	0.2	244.2
60～64歳	331	56.5	51.4	40.2	36.9	29.6	22.1	1.5	0.9	239.0
65～74歳	351	51.0	49.3	40.7	41.9	23.4	29.3	0.9	0.6	237.0
75歳以上	129	42.6	51.9	42.6	47.3	27.9	24.0	0.8	0.8	238.0